

高次脳機能障がいチェックリスト 評価マニュアル(案)

この評価マニュアルは、「高次脳機能障がいチェックリスト」をつけていただく際の評価基準となるものです。また、支援者がスモールステップの支援計画を組み立てたり、ご本人やご家族が自ら次の目標を設定する際の参考になるものです。必要に応じてご活用ください。

評価項目	評価内容	評価				
		0(問題がない)	1(環境調整・代償手段)	2(見守り・声かけ)	3(手助け)	4(支援が困難)
注意障がい	①選択的注意 周りの音や声に注意が散ることなく作業できますか	うるさい場所でも話し相手の声だけ聞き取ったり、やるべき作業に取り組める	ひとりになれる空間や静かな空間を設定しておけば取り組める	名前を呼んだり、今すべきことを伝えたりすれば、必要なものに注意を向けられる	1対1で話をしたり、一緒に同じ作業を行えば取り組める	静かな場所であっても、いろんなことが気になって集中できない
	②持続的注意 ひとつのことに長く集中して取り組めますか	集中力を持続できる	ひとりになれる空間や静かな空間を設定しておけば取り組める	他の事に気をとられても、集中するよう促したり声をかければ、作業に戻ることができる	一緒に作業をすれば集中することができる	じっと座っていることができず、集中することは困難
	③注意の分配 複数のことに同時に注意を向けて作業することができますか	同時作業ができる	手順書を作ってそれを見ながら取り組んだり、下準備(順番通りに並べておく)をしてあげれば取り組める	1つのことに気を奪われやすいが、声をかければ、他のことにも注意を向けられる	常時注意を促したり、1つずつ指示を出すことが必要	同時作業をするとミスが多く、できない
	④注意の転換 ひとつのことから他のことへ切り替えをすることができますか	必要に応じて切り替えることができる	アラームやタイマーを用いることで切り替えられる	名前を呼んだり、今すべきことを伝えれば切り替えることができる	不要なものをしまったり、必要なものに興味を引くようにすれば切り替えられる	一度取り組み始めるとひとつのことに没頭し、切り替えられない
	⑤半側空間無視 片側の物や空間を見落とさずに作業することができますか	片側を見落とすことはない	左側(又は右側)を意識して見たり、端に印をつけたりすることで見落とすことはない	端まで見るよう声かけがあれば注意を向けられる	見える側から声をかけたり、指差して端を示すなど、常時見落とさないよう声かけが必要	いくら見るよう促しても見落としてしまう
記憶障がい	⑥見当識 今日の日付・時間・季節・場所がわかりますか	自分で把握できている	カレンダーや時計、携帯等を自分で見て確認できる	時計などを見るよう促せば確認できる	その都度日付や時間を伝える必要がある	いくら伝えても把握できない
	⑦ワーキングメモリー 数分前に指示された内容を覚えていることができますか	覚えていられる	指示内容を自分でメモしたり、メモに書いてもらったりし、それを見ながら取り組める	もう一度指示を伝え直したり、メモを見るよう声をかければ取り組める	メモを見ることをすぐに忘れてたり、指示されたことすら忘れるため、何度も指示する必要がある	指示を覚えられなかったり、指示とは異なることを勝手にしてしまうため、後始末をしたり、常時付き添うことが必要
	⑧展望記憶 頼まれたことや予定・約束を覚えておくことができますか	忘れない	スケジュール帳やメモを用いて予定管理したり、アラーム機能等を用いて一人で実行できる	メモをとるよう声をかけたり、予定の前日に声をかけておけば実行できる	メモや予定表を見ることを忘れてたり、約束したことすら忘れるため、直前に伝える必要がある	約束を間違えて覚えたり、頼まれたこととは異なることを勝手にしてしまうため、後始末をしたり、常時付き添うことが必要
	⑨長期記憶 最近の出来事や食事の内容などを思い出すことができますか	何を見ずとも思い出せる	メモリーノートやメモ、写メを見れば思い出したり、覚えていなくとも答えることができる	メモしておくよう声をかけたり、メモを見るよう促せば思い出したり答えたりすることができる	一緒にメモをしておいたり、メモを見せれば思い出したり答えたりすることができる	間違えてメモをしていたり、事実とは異なることを答えてしまう

評価項目	評価内容	評価				
		0(問題がない)	1(環境調整・代償手段)	2(見守り・声かけ)	3(手助け)	4(支援が困難)
遂行機能障がい	⑩計画の立案 物事の優先順位をつけて行動することができますか	物事の優先順位をつけて行動することができる	メモなどの補助手段を用いて確認をすることによって、優先順位をつけて行動することができる	周りの人から優先順位を指示してもらったり、行動のきっかけを指示してもらったりすることで優先順位をつけて行動することができる	周りの人が行動の最初のきっかけとなる部分と一緒に行動を開始することができる	優先順位をつけて行動することができない
	⑪計画の実行 外出前の準備や料理などを段取りよく進めることができますか	外出前の準備や料理などを問題なく進めることができる	メモやタイマーなどの補助手段を用いることで問題なく外出前の準備や料理などを進めることができる	周りの人に次の行動を指示してもらったりすることで、段取りよく進めることができる	周りの人が次の行動と一緒に行動することで、段取りよく進めることができる	周りの人が手助けをしても、段取りよく進めることが困難
	⑫効率的な行動 臨機応変に行動することができますか	臨機応変に行動することができる	予定の変更や追加があった場合には誰かに相談する、メモを確認するなどの行動をとることができる	周りの人が声かけや次の行動を指示することで行動することができる	実際に取るべき行動を周りの人が一緒に行う必要がある	予定の変更や追加があると、パニックに陥り、行動することができなくなる
	⑬判断 困ったときに誰かに相談することができますか	自分で判断できないことがあればスタッフや家族等に相談することができる	相談するというルール作りをしておけば、困ったときに相談することができる	周りの人が声をかけ、今の状況を確認することによって、困っていることを相談することができる	周りの人が常に状況を確認することによってはじめて困っていることを把握することができ、相談することができる	困っていることがあっても、相談することができない
コミュニケーション	⑭疎通性 その場に適切な言動をとることができますか	その場の空気にあった言動をとることができる	すべきことを事前に確認しておくことで、その場に適切な言動をとることができる	周りの人がすべきことを確認したり、不適切な言動のたびに合図をしたりすることでその場に適切な言動をとることができる	周りの人がすべきことを具体的に言葉や見本を見せて指示したり、頻繁に声掛けをすることでその場に適切な言動をとることができる	手助けがあってもその場に不適切な言動をとってしまう
	⑮一貫性 会話の文脈や目的に沿った話をするができますか	話がずれることなく話すことができる	会話の文脈からずれても、自ら気づき、途中で修正することができる	会話内容からずれていることを周りの人がさりげなく注意することによって会話の文脈に沿った話をするることができる	周りの人が話の流れを元に戻すなどの手助けをすることによって会話の文脈に沿った話をするができる	手助けがあっても会話の文脈や目的に沿った話をするができない
	⑯理解(失語) 相手が言っていることを理解することができますか	相手の言っていることや書かれていることを正しく理解することができる	相手の言っていることが聞いただけでは理解できなくても、書いてあるものを見ることで補うことができる	周りの人が、理解できている部分を確認し、表現を変えて再度説明することで理解できる	身振り、実物、絵、文字を見せるなど、わかりやすい手段に変えて伝えることで理解できる	手助けしてもほぼ理解できない
	⑰表出(失語) 自分の言いたいことを相手に伝えられますか	自分の言いたいことを相手に正しく伝えることができる	言い間違いに自分で気付いて修正したり、時間がかかるが短文レベルで話したり書いたりできる	自分で修正することは難しいが、表出される言葉から聞き手が言いたいことを推測できる	表情、身振り、指差しなどから聞き手が推測できる。選択肢を提示すれば選ぶことができる。	自分の言いたいことを相手に伝えることがほぼできない

評価項目	評価内容	評価					
		0(問題がない)	1(環境調整・代償手段)	2(見守り・声かけ)	3(手助け)	4(支援が困難)	
社会的行動障がい	⑱自発性	自発的に行動できますか	自発的に行動している	スケジュール表やするべきことのチェックリストなどを確認して概ね自身で行動している	見守りや本人が行動開始できるきっかけを与える声かけにより行動している	スケジュール表やチェックリストの確認を一緒に行ったり、できそうな課題を提示したり手助けにより行動している	手助けをしても行動しない。又はトラブルが生じ支援困難
	⑲意欲	することがなくても横にならずに過ごしていますか	横にならずに過ごしている	するべきもののチェックリストを作成することや出来そうな役割を事前設定することで概ね横にならずに過ごしている	見守りや本人が行動を開始できるきっかけを与える声かけにより横にならずに過ごしている	ポジティブフィードバックを与えることや行動を共にしたり疲労に留意することにより横にならずに過ごしている	手助けをしても横になることが多い
	⑳依存性	自分でできることは依存せずに自分でしていますか	依存せずに自立している	依存傾向を把握し、本人のやりやすい環境に調整することで概ね自立している	依存状況であることや自覚を促す声かけにより自立している	本人の行動を客観的に伝え、必要とされる行動を促したり、見本を提示するなどにより自立している	依存傾向が強く、自分では行わない
	㉑易怒性(認知)	イライラせず、精神的に安定して過ごしていますか	安定して過ごしている	傾向を把握し、きっかけになっている事象を調節することで概ね安定して過ごしている	見守りや状況確認、緩和の声かけにより安定して過ごしている	定期面談や感情コントロール練習により安定して過ごしている	手助けをしてもイライラしやすく不安定なことが多い
	㉒易怒性(行動)	些細なことで怒り出し、暴力や暴言などは見られませんか	怒り、暴力、暴言などは見られない	傾向を把握し、怒りの対象を避ける環境に調整することで概ね暴力、暴言などは見られない	見守りや状況確認、緩和声かけにより怒り、暴力、暴言などは見られない	本人と共に対処法を考え、記録を残して振り返ることにより怒り、暴力、暴言などは見られない	手助けをしても怒り、暴力、暴言などが見られる
	㉓固執	1つのことにこだわらず、切り換えることができますか	こだわりはなく、切り換えられている	傾向を把握し、やり過ぎしやすい環境に調整することで概ね切り換えられている	見守りや状況確認、切り換え促し声かけにより切り換えられている	こだわりによるデメリットを振り返り、本人と妥協点を探り、予めルールを決めておくことにより切り換えられている	手助けをしてもこだわり、切り換えが困難
	㉔欲求コントロール	食べ過ぎ、金銭管理、問題行動等抑えるべき欲求をコントロールできますか	自ら欲求をコントロールしている	制限を設けるなど周囲の管理により概ね欲求コントロールしている	自覚の促しや状況確認、助言等の声かけにより欲求コントロールしている	行動のデメリットを伝え、具体的アドバイスや本人が納得したルール設定、本人が記録を付けて振り返る癖を付けたり、自己流で判断せず相談を促すなどにより欲求コントロールしている	手助けをしても欲求コントロールが困難
	㉕独善的処罰感情	本人の主義に反した人を許すことができますか	マナー違反をしている人を見てもあまり気にならない	傾向を把握し、刺激が入らない環境を調整することで回避している	周囲の声かけにより許せている	結果として生じた問題の状況を整理し、回避することや改善の必要性があることを説明し本人が記録を付けて振り返る癖を付けることで許せている	いくら事情を説明しても許すことが困難
	㉖易疲労性	すぐに疲労感を訴えますか	すぐに疲労感は訴えない	傾向を把握し、周囲からの刺激や作業量の調整など環境設定されれば概ね訴えない	疲労感の確認や休憩の促しなど周囲からの声かけにより訴えない	疲労感について状況整理や疲労の緩和を一緒に行なうなどの手助けにより訴えない	手助けをしてもすぐに疲労感を訴える
	㉗生活リズム	起床、食事、睡眠などのリズムは規則正しいですか	規則正しい	食事、起床時刻の順守や睡眠に与える負の影響を軽減することで概ね規則正しい	生活リズム表チェックなどの継続確認で小さな乱れにも留意することで規則正しい	生活リズムの確立が健康維持、再発防止に必要であり、リズム継続が社会復帰への基本であることを認識してもらうことで概ね規則正しい	手助けをしてもリズムは乱れている
㉘固執など	頻繁にトイレへ行きますか	頻繁にトイレへ行くことはない	環境設定により頻繁にトイレへ行くことはない	声かけにより頻繁にトイレへ行くことはない	手助けにより頻繁にトイレへ行くことはない	手助けをしても頻繁にトイレへ行く	

評価項目	評価内容	評価				
		0(問題がない)	1(環境調整・代償手段)	2(見守り・声かけ)	3(手助け)	4(支援が困難)
日常生活動作	⑳移動(屋内) 安全に移動できますか	人や物にぶつかることなく屋内を1人で移動できる	図面などを見れば、ひとりで移動できる	誰かが、声をかけたり、見守りすることで移動できる	誰かが、一緒に行動することで移動できる	安全に移動するためには、二人以上の支援が必要
	㉑移動(屋外) 安全に移動できますか	人や物にぶつかることなく1人で外出できる(交通機関含む)	行き先を書いた紙などがあれば、1人で移動できる	行き先などを書いた紙などがあり、行き方の確認しておくなどすれば、1人で外出できる	誰かが一緒に行動すれば外出できる	安全に外出するためには、二人以上の支援が必要
	㉒食事 食べることができますか	左側を見落とすことなく1人で食べることができる	おかずを一口大にしたり、すくいやすいお皿にするなどの工夫などすれば、1人で食べることができる	ゆっくり食べるように声掛けしたり、見守りをするとな人で食べることができる	1品ずつ出す、常にゆっくり食べるように声掛けするなどすれば、食べることができる	1品ずつ出す、常にゆっくり食べるように声掛けするなどしても、むせたり、こぼすことが多く上手に食べることができない
	㉓排泄 排泄ができますか	1人で排泄できる	手すりをつけたり、下剤を服用するなどすれば、1人で排泄でき、また、失敗することはない	トイレを促す声掛けや、見守りがあれば排泄できる(失敗があっても月に1回未満)	ズボンやパンツの上げ下げなどの介助があれば、排泄できる(失敗があっても、週に1回未満)	時間を決めての声掛けや見守り、介助をしても、排泄の失敗がある(週に2回以上)
	㉔身だしなみ 状況に応じた身だしなみをすることができますか	外出時など、状況に合わせた身だしなみができる	前もって伝えておけば、状況に合わせた身だしなみができる	外出前に声掛けしたり、準備したりしておけば、状況に合わせた身だしなみができる	状況に合わせた身だしなみをするためには、外出時や寝る前などに準備をし、また、確認することなどが必要	支援者が準備をし、声掛けなどをしても、状況に合わせた身だしなみをするのは難しい
	㉕入浴 お風呂に入ることができますか	1人でお風呂に入ることができる	手すりや、シャワースイス、ボディブラシなど利用すれば一人で入浴できる	声掛けや見守りがあれば安全に入浴できる	背中洗いや、浴槽への出入りなどの介助があれば安全に入浴できる(一人)	安全に入浴するためには、二人以上の支援が必要
	㉖服薬 時間どおりに決められた量を服薬することができますか	頓服薬も含めて自己管理できる	1週間分の入れ物を利用するなど工夫すれば服薬できる	服薬時の声掛けや間違いがないかの確認があれば一人で服薬できる	服薬の準備をし、また、食後に手渡すなどすれば、服薬できる	服薬を嫌がったり、頓服をたくさん飲んでしまうなど、適切に服薬するために困難が伴う